音楽療法士になって

社会福祉法人 三篠会
重症心身障害児施設 鈴が峰
特別養護老人ホーム 鈴が峰
三浦 静さん（初教19期生）

社会福祉施設「鈴が峰」は緑に囲まれ、宮島や瀬戸内海が見渡せる景色の良い所にあります。同敷地内に、重症心身障害児施設（以下重症児施設）と特別養護老人ホーム（以下特養）があり、入所者の方々の治療や生活の場となっています。

鈴が峰では、医師・看護師・介護員・薬剤師・歯科衛生士・臨床工学士・ケアマネージャーなど様々な職種の職員が勤務しています。私の所属するリハビリ課には、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・音楽療法士が所属しています。

鈴が峰に就職して約1年半が経過しました。昨年度は重症児施設を中心に、上司の音楽療法士の指導を受けながら活動しました。卒業する4ヶ月前までは教員をめざしていたので、重症児施設や特養についても知らず毎日が勉強でした。今まで障害児（者）の方に関わる機会がなく、どう関わってよいか戸惑いました。しかし、いつの間にか普通に関わっている自分がいました。

昨年度重症児施設では、個別音楽活動、10名程度の集団音楽活動、更に通園での音楽活動やリハビリ課全員によるによる30名程度のリハビリ体操を行っていました。他に、デイルームや居室に音楽を流したり、楽器練習をしたりと、多くの仕事があります。水曜日は特養の活動日で今も行っていますが、午前は音楽レク、午後は月2回ケアハウスでオカリナを一緒に練習しました。

今年度から、水・金・土の午前を特養、火・木・土の午後を重症児施設で活動しています。特養での活動は、音楽レク・個別音楽活動・小集団音楽活動です。

今後は、特養の音楽療法士として活動、そして為給々に特養での勤務日を増やし、活動も主担当で行っています。また活動だけでなく、音楽環境も同時に整えています。例えば、食堂でテレビだけでなく、状況に応じて音楽を流したり、夕食前にピアノを弾いて皆で歌ったりします。

学生の時からの夢に、第一歩が踏み出せたことを嬉しく思います。しかし、ここからがスタートなので入所者の方と音楽を通して関わっていきたいと考えています。

特養音楽レクの一場面

文教の人魚姫

初等教育学科2年
島本 千絵さん（幼児教育コース）

今回は、学校の中だけでなく県代表としても活躍中の"人魚姫"、初等教育学科2年生の島本千絵さんにインタビューしてきました。

ち…島本さん　イ…インタビュアー

イ　ちえちゃんは、大学に入学した時からすでに活躍していたよね。いつから水泳を始めたの？

ち　2才の頃、親に健康のためにお姉ちゃんが通っていたスイミングスクールに入れられたんよ。だから、きっかけは小さかったから覚えてないけど、かは小さかったから続けてきたんよ。

イ　すごいねえ。もう17年間も続けて楽しかったから続けてきたんよ。

ち　中国五県の大会では、400m、200mのクロールで3位だったんだよ。試合前は緊張して足がガタガタふるえてしまうんだよね（笑）。でも、泳いでる時は遠くで応援してくれている人たちの顔もはっきり見えるんよ。

イ　さすが!!すごい集中力だね。こんな成績を残すには相当な練習をするんでしょ。泳ぐことがイヤになったことはないの？

ち　あるよ。友達と遊ぶ時間ないし、半日ぶっ通しで練習することもあるしね。それに、高2の時にいきなり、水に入ることが怖くなって顔を洗うことも出来なくなってしまったんよ。だからカウンセラーに話を聞いてもらって理カウンセラーに話を聞いてもらってだいぶよくなったんだ。でも今でも、時々症状が出そうになるから、違うことを考えるようにしてるんだよ。

イ　実際にそんなこともあるんだ。やっぱりスランプとかあるよね。

ち　この間、4年ぶりにやっと自己ベストが出たんだ。それまでは、スクールを休んだり、泣いてしまったりしてたんだ…。けど、自分の思いをぶちまけたらスッキリしてまた頑張ろうって気になれたんよ。やっぱり、たまには息ぬきも必要だよね。でも、水の中にいるだけで心が落ちつくから水の中にいることが好きよ。

イ　今の学校での活動は？

ち　今まで水泳部はなかったから、私が入学してから同好会を立ち上げたんよ。今では部員7人で活動してます。でも、なかなかみんながそろうのは難しいんだけどね（苦笑）。部になれたらいいなって思っているところなんよ。少しでも泳ぐことが好きな人は経験とか関係なく、どんどん入ってほしいな。

イ　早く部になれたらいいね。最後に、あなたが生まれ変わっても、水泳という競技を選ぶと思いますか？

ち　うーん…ダンスもしたいと思うけど、やっぱり水泳を選ぶと思います。辛いことも多いけど水泳が好きだから。

イ　今日はありがとうございました。活躍期待しています。

ち　ありがとう。頑張ります。

インタビューしていて、驚きの連続でした。島本さんの話をしている表情から、本当に水泳が好きなんだということが伝わってきました。私たちも島本さんのように、二生懸命打ち込める何かを見つけていきたいと感じました。水泳に興味のある人はプールをのぞきに行ってみて下さい。きっと優しい笑顔でみんな迎えてくれると思います。

今回のインタビューは、初教2年の岡本理那、藤田公美、宮本智子でした。

島本千絵さん
宮本　岡本　藤田

卒業生からひとこと

（平成15年8月現在）

～「広島文教教育」の巡恒八ガキより～

（　）は旧姓

初教11期生　重松　佐和子（松尾）
3才と1才の2児の母です。先日、森美紀子さん（旧姓　中山さん）が遊びに来てくれて卒業以来の再会をしました。また、かわらばんの金井先生の姿がとてもなつかしくお会いしたいのですが、島に住んでいるため泊まりになり、行くことができません。

初教12期生　吉田　直美（斉藤）
犬（ポストンテリア）を飼いはじめて1年。こんなにかわいく愛らしく思えるなんて…という感じです。我が子のよう？現在私は近くの神経内科（心療内科）に勤めていますが、ストレス病に悩む人の多さに日々驚いています。普通に生きるって、実は難しい!!デス。

初教12期生　一本松　美佐緒（宇井）
もうすぐ3歳になる息子の成長に驚きながら、日々過ごしています。広島にいても、なかなか同部の町へ足を運ぶことはないのですが、先日「ガラスの里」へ子どもをつれていき久しぶりの可部をとてもなつかしく感じました。

初教13期生　池川　恭子
今年度新規採用として母校に勤務することになりました。28歳の新採。4年生35人の子どもたちと元気に頑張っています。文教で学んだことを再認識する毎日です。

初教14期生　黄金　由希（大石）
結婚・出産と忙しい1年でした。2ヶ月の娘と毎日泣いたり笑ったり…。昨年は松坂牛の話をするため大学に行き、後輩の皆さんが頑張っている姿を見ることができて嬉しかったです。

初教14期生　西川　記代（山田）
只今、子育て奮闘中。結婚当初では考えられませんでしたが…。今ではダンナ様をしょっちゅう叱りとばしております。忙しく騒がしい毎日ですが、楽しくて仕方ありません。

初教15期生　松永　陽子
今年教職3年目。2回目の2年生担任です。毎日楽しくやっています。10月に結婚することになりました。公私ともにがんばっていきたいと思います。かわらばん、いつも楽しく読んでいます。

初教16期生　伊東　寿子
役場に就職して4年目。住民課窓口に異動して3年目になります。最近、河鹿生の婚姻届が多く、受理する時には嬉しさ半分、寂しさ半分…。でも、仲睦の幸せな笑顔に私もニコニコ、お仕事頑張れちゃうんです。

初教16期生　伊牟田　瞳
お久しぶりです。現在、名瀬市（奄美）小宿小で3年目になりました。毎日、暖かい奄美大島で真っ黒になりながら、頑張っています。

初教17期生　宍戸　輝美
指導員を初めて3年目。今年度は、初めて卒業生を二人送り出します。残り7ケ月、子どもにとっても私にとっても心に残る思い出をたくさんつくっていきたいです。9月には二人にとって小学校最後の運動会が、けれど、一年生2人にとっては初めて。今年の運動会は、今まで以上に大変そうです。

初教18期生　鎌田　瞳
仕事は、商店の設計（CAD）をさせていただいています。思っていた以上に楽しく良い環境で、充実した日々を過ごさせていただいています。

初教18期生　島村　清香（畑谷）
教員2年目となり、たくさんの校務分掌がまわってきました。合わせて5年生の担任を新採用の方と組め、受け持たせていただくことになり、毎日が目まぐるしい忙しさです。しかし、毎日、子ども達から笑顔と元気をもらいながら、頑張っています。

初教19期生　進藤　夕紀子
児童養護施設の男子寮で元気いっぱいの小1～高1の男子を担当しています。大家族のお母さん役をしていますが、またまたお姉さんや友達的存在な私です…。

初教19期生　佐々木　恵美
子どもがだんだん私の名前を覚えてくれ、2歳児なので朝来ると笑顔で、私のところに走って来てくれるのが嬉しくて、毎日仕事を頑張っています。

あこがれの幼稚園教諭となって

山口県防府市
学校法人 光宗学園 華城幼稚園教諭
能野　恵美さん（初教19期生）

あこがれの幼稚園教諭となって、二年目に入りました。一年目は年少クラス19人の担任をしました。初めの一ヶ月は、辞めたい気持ちでいっぱいでした。自分の抱いていたものとのギャップ、自分の力のなさを自覚し、担任という責任の重さに押しつぶされかけ、半日涙が止まらないことも…。しかし、先輩先生方や子ども達の笑顔に支えられ、とても楽しい毎日へと変わり、充実してきました。充実してきたかと思えば壁にぶつかり、へこみ、そして立ち直る…の繰り返しでした。

一年目はわからないことばかりで自分のことでいっぱいになり、子ども達に満足の行く保育ができたとは思っていません。それでも子ども達は私を一人の先生として見ており、大好きと言ってくれます。一人ひとりの個性がとても強く、悩まされることも多々ありますが、とてもかわいくてしかたありません。

二年目になり、年中クラス23人（新入園児7人）の担任をしています。今年は余裕のある保育をしていくぞ!!という気持ちでスタートしましたが、やはり勉強の連続です。自閉症という障害のある子の担任になり、毎日関わりかたなどを考え、いろいろ試しているところです。また、新入園児の不安をどれだけ早く取り除き、自信に変えていくかという難しさを実感しているところです。

現場に出て初めて知る保育の深さ。とても大変だけれども、それだけやりがいのある仕事だと思っています。子どもの素敵な笑顔を見ることができ、成長の喜びを感じられ、将来をも楽しみにできる仕事は他にありません。自分の選んだ仕事に誇りを持ち、日々学ぶことを忘れず、これからもパワフルな子ども達と向き合い、全力投球で楽しい毎日にしていこうと思っています。

園児たちと能野さん

突撃レポート！ とうとう実現！ 北海道取材

レポーター　山田 悦子　中島 雪絵

1歳の陽里（ひより）ちゃんと一緒に

中標津町立丸山小学校教諭
船崎　朝子さん
（旧姓　小原　教職19期生）

船崎さん親子と山田・中島

船崎さんを紹介します。

長崎県から文教へ、大学院までの6年間を広島で過ごされ、卒業後教員採用試験を突破し北海道中標津へ。現在、中標津町立丸山小学校の教諭として頑張っておられます。

今、道東は一番いい季節だから、と船崎さんの運転で勤務校の丸山小学校、摩周湖、開陽台へと連れて行っていただきながら、車中での取材となりました。

最初は戸惑いばっかり～

赴任した1年目は、音楽専科。船崎さんの前任者は子どもたちから大人気だった先生。そんな先生のあとに、音楽が特別できるわけではなく、経験も乏しかった船崎さんが入り、高学年の子どもたちから無視されたこともあったり。初めてのことばかり。慣れない土地で一人淋しくて辛い思いをしたこともあったそうです。そんな時、飛行場へ行っては「この飛行機に乗れば帰れるのになぁ」と思ったり、人気のない夕暮れの開陽台へ行ってはボーっとたたずんだりしていたそうです。

最初は、方言も理解できなくて、「手袋をはく」と言う子どもたちに対して「大変だぁ、言葉の使い方を間違えている!!」と心配したこともあったそうです。

7/4日、前日から北海道入りした、初教14期生山田悦子と18期生中島雪絵は、12期生船崎朝子さん（旧姓小原）をたずねて、道東・中標津町へ行ってきました。

Turning Point

「教採に二回失敗して良かったなって思います。」

4年生の時、長崎県教採一次合格者6名、二次突破者5名、不合格だった1人が船崎さん。

「あの時は悔しかったけど、大学院へという道が開けた。家族や先生方が応援してくれた。そして、北海道へという気持ちになり、決意。誰にでもターニングポイントってあると思う。」

ドラマがあったんです

「4年生の社会科の授業で、長崎県の船崎さんの母校の4年生と交流授業をしました。暖かい地域の暮らし方と寒い地域の暮らし方をビデオを送りあったりして授業をしました。その子どもたち同士が、バレーボールの全国大会の会場で出会ったんです!!北海道代表校・長崎県代表校として出場、びっくりしました。」

夢へ向かっている後輩たちへ

今の4年生をはじめ、教員を目指して頑張っている現役文教生から、「私は本当に教員に向いているんだろうか。すごく不安になる」という声をよく聞くのですが、と船崎さんにたずねてみました。

「すごくわかるな～。人って、壁が大きければ大きいほど自分でブレーキをかけちゃうって聞いたことがある。その大きな壁に挑戦していることがすごいことだから、大丈夫。教員に向いているかどうかは先生になってからわかるんじゃないかな？」

最後に私たちが感じたことは、「夢を実現させることに苦労も伴いますが、あきらめずにコツコツとすれば、いつかはかなうということ。そして、人との関わりや新しい環境に入っていくためには「一歩前へ」の気持ちが大切だということです。今の環境に満足していては、自分を高めることはできないと思いました。